

サイエンスカフェの御案内

日 時 : 平成29年5月26日(金) 19:00~20:30

場 所 : 文部科学省情報ひろばラウンジ(旧庁舎1階)

東京都千代田区霞が関3-2-2

主 催 : 日本学術会議、文部科学省

テ ー マ : 農業と障がい者福祉の協働の場を考える

講 師 : 濱田 健司さん 一般社団法人JA共済総合研究所主任研究員
全国農福連携推進協議会会長

ファシリテーター: 澁澤 栄さん 日本学術会議会員、東京農工大学大学院農学研究院教授

内 容 :

平成25年版の農林水産省統計では、基幹的農業従事者170万人、農業就業人口240万人、平均年齢66歳、離農者12万人、耕地面積450万ha、耕作放棄地40万ha、農地の集積した農家の労働力不足が顕著になっています。今後10年で農業者は更に数分の一に減少するため、ICTや農業ロボットなどの先端技術の導入と新たな担い手の登場が期待されています。また、技術革新の現場では農作業の分割と再統合が頻繁に行われているので、利用者に応じた再統合が可能になっています。

平成27年版の厚生労働省統計では、身体的・知的・精神的障がい者の単純合計が788万人になり、4割が就労しています。障がい者の就労を支援する事業所は1万5千ほどあり、最近では農作業から農産物販売まで行い賃金支払いまでする事業所が増えています。障がい者福祉事業が社会的コストのみではなく、付加価値の生産者として登場しつつあります。

困難に直面している農業と障がい者福祉事業が、従来の枠を超えて協力することにより、「農福連携」事業の新たな担い手と技術革新の道筋が見えてきます。地域社会の様相も変化します。

今回のサイエンスカフェでは、近著「農の福祉力で地域が輝く」(創林社、2016)でも「農福連携」活動の多様な展開を強調し続ける気鋭の研究者、濱田健司さんにご登壇いただき、農業分野への障がい者の就労事例について紹介していただきながら、地域社会の「マチづくり」をご一緒に考えたいと思います。どうぞ、ぜひふるってご参加ください。

【参加方法】

事前申し込みでの受付となります。

「氏名」及び「5月26日サイエンスカフェ参加希望」と書いたEメールを sciencecafe@devotion-japan.com までにお送り下さい

【参加費】 無料 【定員】 30名

【アクセス】

銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結

千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分

<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/access/index.htm>

